

(4) 当該年度の実施内容	29年度の事業内容	30年度の事業内容	31年度の事業内容
※下記に該当する事業は、年度ごとに事業内容を記入する ・主要事業 ・市長マニフェスト ・未来PJ事業 ・合併建設計画事業			

事務事業名	いばらきっ子郷土検定事業	事務事業No.	30301000650	所属課	生涯学習課
-------	--------------	---------	-------------	-----	-------

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その2）

(5) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	
民間シンクタンクによる調査で、茨城県の魅力度が全国最下位という結果を受け、「楽しみながら茨城県の伝統や文化等を学ぶことができるよう、平成25年度より茨城県独自の郷土検定を実施し、子どもたちの郷土への愛着や誇りを育む」ことを目的として、県内の全中学2年生を対象に行っている。当初平成25年度から27年度までの期間限定事業であったが、予想以上に反響が大きいため、平成28年度まで継続した。	
(6) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？	
県大会に出場した代表生徒からは、自分たちの住む地域や茨城県のことを知るいい機会となったと好評である。 県大会出場に際し、代表生徒の選出について学校行事や部活動の調整などで苦慮するとの意見があった。 桜川市は県大会に同伴するゆるキャラがいないので盛り上がり欠けるという意見があった。	
(7) 前回の事務事業評価に対する改革・改善の具体的内容	
改革改善を行う	市内の対象者が検定を通して茨城県にさらに親しみをもってもらえるような桜川市問題を作成するために、協力課に問題提供を依頼し、学校教育主管課の主導事主に中学2年生にとって適切なレベルの問題かの確認を依頼する。

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目	
目的 妥当性	①政策体系との整合性 （この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？）
	☒ 結びついている 青少年（中学2年生）を対象としているため、3-（3）-①青少年活動の充実につながる。
	②公共関与の妥当性 （なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？）（法定受託事業はその名称）
	☒ 妥当である 県事業として実施されており、かつ事業の目的が若い世代に自身の住む地域のことを知ってもらい、郷土に関する関心を高めてもらう事であるため、市として関与することは妥当である。
有効性	③成果の向上余地 （成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？）
	☒ 向上余地がある 桜川市大会では、県問題（県作成）25問と桜川市問題（桜川市作成）25問を回答する形となる。市内の対象者（中学2年生）が検定を通して茨城県にさらに親しみをもってもらえるような桜川市問題を作成することで、成果の向上を図ることができる。
	④廃止・休止の成果への影響 （事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？）
	☒ 影響有 県主催事業のため、市で廃止及び休止することはできない。
効率性	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 （類似事業や統廃合の可能性はありますか？（市以外の取り組みも含む）） （他に手段がある場合） ☒ 具体的な手段、事務事業名
	☒ 余地がない 類似する事業がないため
	⑥事業費・人件費の削減余地 （成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？）
	☒ 削減余地がない 社会教育主管課（桜川市では生涯学習課）、学校教育主管課（桜川市では教育指導課）でそれぞれ1名ずつで担当しており、これ以上の人員削減は見込めない。
公平性	⑦受益機会・費用負担の適正化余地 （事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？）
☒ 公正・公平である 県による対象者設定（中学2年生）があり、その中で市内の全中学校が市大会に参加しているため、公正・公平である。	

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性（次年度計画と予算への反映）

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括（振り返り、反省点）																								
①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒	事業も好評ゆえ4年目に入り、県大会の盛り上がりもあって当初の計画と異なり今後も継続する流れである。事後アンケートで「これからも桜川市に住みたい」と回答した生徒の割合が昨年度に比べ減少しており、市の魅力をもっと感じられる市町村問題を作りたい。																								
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果（終了・廃止・休止の場合は記入不要）																								
☐ 終了 ☒ 継続 ☒ 改革改善を行う ☐ 現状維持 ☐ 廃止 ☐ 休止		（複数回答可） ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☒ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる																								
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策		<table border="1"> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下		×	×																						
4年目ともなると新しい問題を作ることも難しくなるため、協力課に問題作製を依頼したり、過去の問題の再利用も考えたい。注目度が上がるにつれ各市町村も力を入れるようになっており、桜川市も県と相談して応援人数を増やしたり、出場校45校中41校が随伴させるゆるキャラを桜川市も連れて行けるようにする。		(6) 事務事業優先度評価結果 成果優先度評価結果 ⑤ コスト削減優先度評価結果 ③																								

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価（課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合）
課長確認後の評価 ☐ A：継続（現状維持） C：終了、廃止、休止 ☐ B：継続（改革改善を行う） D：2次評価へ提出	確認欄 ☐